

令和2年9月17日

厚生委員会資料

病院事業局

目 次

[報告事項]

- 1 富山市病院事業中長期計画の策定及び進捗状況について

.....

1頁

1 富山市病院事業中長期計画の策定及び進捗状況について

[経営管理課]

1. 計画の策定について

(1) 計画策定の背景

富山市病院事業は、2019年4月から、富山市民病院と富山まちなか病院の2病院体制となったことから、より効率的な事業運営が行えるよう、両病院の機能分化や連携について整理し、病院事業全体の方向性を示した「富山市病院事業中長期計画」を策定したものの。

(2) 計画の期間

- ・ 2020年度から2025年度の6年間
- ・ 計画期間中に病院事業を取り巻く環境に大きな変動があった場合は、本計画ではなく、別途作成する経営改善計画等に反映するもの。

(3) 経営改善計画との関係について

- ・ 中長期計画：富山市病院事業の将来を含めた基本構想
- ・ 経営改善計画：3年毎の基本方針と具体的な計画。
計画実現のための具体的な施策と数値目標

富山市病院事業 中長期計画 (2020～2025年度)

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
基本構想	→					

富山市病院事業 経営改善計画 (2020～2022年度)

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
基本方針 ※3年ごとに見直し	→			→		
行動計画 ※今後毎年策定	→	→	→	→	→	→

2. 両病院の現状と課題

分析結果(問題点)

外部環境分析

- 2025年に向けて富山医療圏では回復期病床が不足。その他の病床は余剰と推計
- 現在の富山医療圏の後方連携の大半は、療養病床での受け入れ。地域包括ケア病床での受け入れはわずか
- 富山医療圏の回復期リハの受け入れは特定の病院へ集中

内部環境分析

- 富山市病院事業の継続的な赤字
- 市民病院の多くの建設設備が既に標準的な寿命を超過
- まちなか病院建築以降55年が経過(建物の耐用年数の代表値は60年)
- まちなか病院の増床の余地がない
- 市民病院の病床利用率が低く且つ毎年低下
- 外来患者数に対して予定入院件数が少ない

意見聴取結果

- 経営方針や重要な情報が病院職員に十分に浸透していない
- 富山医療圏内の他急性期病院と差別化できる強みがない
- 両病院の建物が老朽化。病室等のアメニティ面で他病院より見劣りする
- 病院職員の貢献を評価する仕組みがない
- 近隣医療機関などへのアピールが不十分
- 富山市中心部で回復期病院が少ない

■ 分析により導かれた課題 ■

- 現状の収支悪化について、短期的に改善すること
- 急性期医療機能の維持のため、地域連携の促進等により一定数の症例数を確保・維持すること
- 両病院によるシームレスな医療連携をモデルとして市全体の地域包括ケアシステムを構築し、そのために必要な施設改修や建て替えを含む病床再編について、財政面やLCC(建物のライフサイクルコスト)も考慮した上で検討を行うこと
- 医療従事者を確保し、且つ業務の効率化や生産性向上を図ること
- 上記の項目を推進するための管理体制を整備すること

課題解決のための具体的な施策は「経営改善計画」で策定

あるべき姿・富山市病院事業基本構想の実現へ

3. 基本構想

(1) 両病院の富山市における役割

基本構想(あるべき姿)

市民病院：高度急性期・急性期医療を担う地域の中核病院

まちなか病院：回復期を担う市内急性期病院の後方連携病院

- 全国でも有数の急性期医療の維持
- ほぼ100%の救急応需率を達成している救急輪番制度の維持
- 市の中心部に不足している回復期医療の提供
- 患者の治療を機能間や病院間で分断しないシームレスな医療の提供
- 上記の安定的な提供

【市民病院の具体的な役割】

- 地域のかかりつけ医や中小病院からの紹介による、専門性の高い医療を必要とする疾患の診断と治療
- 介護施設等からの二次救急に相当する重症且つ緊急性の高い患者の受け入れ
- 軽症も含め、全ての要請に応える「断らない病院」
- 災害医療等の政策医療への対応



【まちなか病院の具体的な役割】

- 転院の受け入れを「断らない病院」「可能な限り前方病院のニーズに合わせた転院受け入れを行う病院」
- 在宅復帰の機能を十分に発揮できる、リハビリ機能や退院支援機能の充実
- (検討事項)
退院後の在宅医療の機会が損なわれないよう、訪問診療や訪問介護等の在宅医療機能の提供



(2) 両病院の連携・病床再編方針

市民病院

- ダウンサイジングによる医療資源の集中化
- 現在の595床から50床程度のダウンサイジング
- 更にまちなか病院建て替えまで、50床程度の1病棟を回復期病棟として運用することを検討

まちなか病院

- 2020年度中に50床のうち41床を地域包括ケア病床に転換
- 更に将来的な回復期医療の需要を精査した上で、市民病院からの病床移転や建て替えを含めた回復期機能の拡充

(3) 安定的な運営のための収支計画

- ・ 計画最終年度の2025年度において、富山市病院事業で医業収益約137億円、経常収益約2億円を目指す。経常収支は2021年度に黒字化達成を目指す。
- ・ 市民病院は計画初年度2020年度からの経常収支黒字化達成を目指す。
- ・ まちなか病院は2023年度に経常収支の黒字化達成を目指す。

4. 計画の進捗状況

病院事業局

- ・ タスクフォース（TF）の活動開始（令和2年1月～）
4つのタスクフォース（地域連携推進、まちなか病院一体経営、管理体制改善、医事課発収支改善）が始動

市民病院

- ・ 病棟機能の再編（病棟内リハビリ、病棟サテライト薬局）（令和2年1月～）
- ・ 新手術室の稼働（令和2年7月～）
- ・ 一般病床50床の削減（令和2年10月（予定））

まちなか病院

- ・ 地域包括ケア病床への転換（令和2年8月～）
⇒ 病床稼働率の向上
- ・ ジェネリック医薬品使用割合の向上